

キャンプ体験が児童のコミュニケーションスキルに与える影響

- 集団凝集性に着目して -

松本 拓也(生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 中野 友博

キーワード：キャンプ体験，児童，コミュニケーションスキル，集団凝集性

1. 序論

近年、自然の中で仲間と遊んだり、コミュニケーションをとる機会が減少している。児童が多くの時間を過ごす小学校では集団で生活し、集団行動が求められる。所属する学級集団で充実した日々を送るためには、互いにコミュニケーションをとり、互いに影響し合える関係を築く必要がある。

本研究ではキャンプ体験が児童のコミュニケーションスキルに与える影響を明らかにすることを目的としている。コミュニケーションスキルと集団凝集性の関係性を明らかにするために以下の課題を設定した。

【課題1】キャンプ体験を通してコミュニケーションスキルが向上するかを明らかにする。

【課題2】集団での活動プログラムを通して班の中で協力し合うことで集団凝集性が向上するかを明らかにする。

【課題3】集団凝集性が向上することで、コミュニケーションスキルも向上するか明らかとする。

2. 研究方法

【被験者】1) 海洋プログラムをメインとした、あまみネイチャーキャンプに参加した小学生児童、男子13名、女子4名、合計17名を対象とした。

2) 琵琶湖一周をメインとした、びわ湖アドベンチャーキャンプに参加した小学生児童、男子17名、女子6名合計23名を対象とした。なお、回答に不備があった1名を除き調査対象が22名となった。

【調査内容】コミュニケーションスキル、集団凝集性を測定するために、筆者が独自に作成した調査用紙を使用し、キャンプ前、キャンプ後の計2回アンケート調査を行った。

3. 結果と考察

1) コミュニケーションスキル

あまみネイチャーキャンプでは、全体のコミュニケーションスキル合計得点($t(16)=2.14, p<.05$)と1班のコミュニケーションスキル合計得点($z=-2.04, p<.05$)が有意に向上した。

表1 あまみネイチャーキャンプコミュニケーションスキル得点

コミュニケーションスキル	pre		post	
	M	SD	M	SD
全体	52.47	6.57	53.76	6.68
1班	55.33	5.32	57.00	4.56

びわ湖アドベンチャーキャンプでは、全体のコミュニケーションスキル合計得点($t(21)=$

$2.05, p<.05$)、「明朗性」因子($t(21)=2.30, p<.05$)3班のコミュニケーションスキル合計得点($z=-2.03, p<.05$)が有意に向上した。分析結果を表2に示した。

表2 びわ湖アドベンチャーキャンプコミュニケーションスキル得点

コミュニケーションスキル	pre		post	
	M	SD	M	SD
全体	53.55	7.60	55.91	8.77
明朗性因子	16.59	2.92	17.32	3.01
3班	51.67	7.50	57.00	10.16

2) 集団凝集性

びわ湖アドベンチャーキャンプでは全体の集団凝集性($t(21)=2.50, p<.05$)が有意に向上した。分析結果を表3に示した。

表3 びわ湖アドベンチャーキャンプ集団凝集性得点

集団凝集性	pre		post	
	M	SD	M	SD
全体	32.14	5.45	34.82	5.57

3) あまみネイチャーキャンプでのコミュニケーションスキル向上の理由は集団凝集性の関係性だけではなく、個人で行う活動での新しい発見を仲間に伝えるなどの他の要因も大きく関係性していることが分かった。びわ湖アドベンチャーキャンプでは、班の中でコミュニケーションをとり合うことが多く、その結果、コミュニケーションスキル向上に集団凝集性がより関係していたと考えられる。

4. まとめ

以上の結果からコミュニケーションスキルと集団凝集性の関係性にはプログラム内容がとても重要であり、個人で活動するプログラムが多いキャンプよりも、班の中で活動するプログラムが多いキャンプの方が班の中でコミュニケーションをとることが多いことから、コミュニケーションスキルと集団凝集性がより関係していると言える。

(参考文献)

1) 向坊俊，城後豊(2006) 自然体験学習が児童の自己表現力に及ぼす影響-体験プログラムに着目して-，野外教育研究 10, pp35-